

都民のための ねずみ防除読本



東京都

はじめに

ねずみは有史以来、人間の生活圏に住み着き、食べ物を盗んだり、建物の柱や衣類をかじるなどの被害を与えてきました。そして、ペストなどの恐ろしい感染症を媒介し、多くの人命を奪ったこともありました。

ねずみは公衆衛生が格段に向上した現代においても、大都市のビル内部や住宅街などあらゆる都市環境にたくみに適応して増加し、都民に様々な被害を与えています。

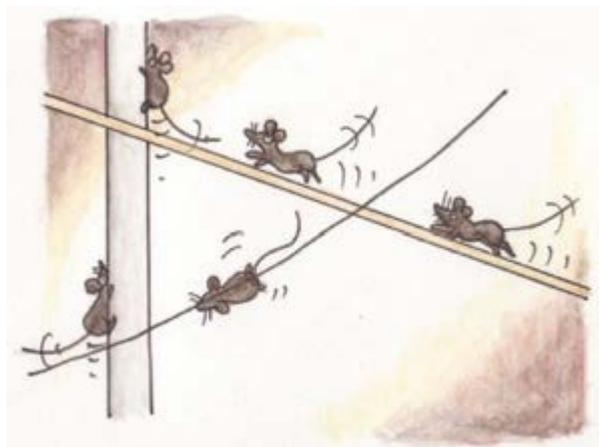
この小冊子は、東京都がねずみ対策を担当する区市町村に向けて策定した「東京都ねずみ防除指針」（平成 17 年 2 月）を踏まえ、東京のねずみ問題を解説するとともに、都民の方々がねずみ被害にあわないための日頃の対策と、ねずみに侵入された場合の対策に役立つよう、防除の方法等についてまとめたものです。

ねずみ被害に悩む都民の方々に活用していただければ幸いです。

東京都保健医療局健康安全部環境保健衛生課

〔目 次〕

1	東京でねずみは増えているのか……………	3
2	なぜねずみの相談が多いのか……………	4
3	ねずみの被害にはどのようなものがあるのか……………	7
4	防除はどのように進めるのか……………	11
5	ねずみを住み着かせないために －環境的防除－……………	19
6	侵入したねずみを駆除する －物理的防除と化学的防除－……………	24
7	ねずみ駆除を業者に頼む場合……………	26
8	ねずみに関する相談・お問い合わせは……………	28

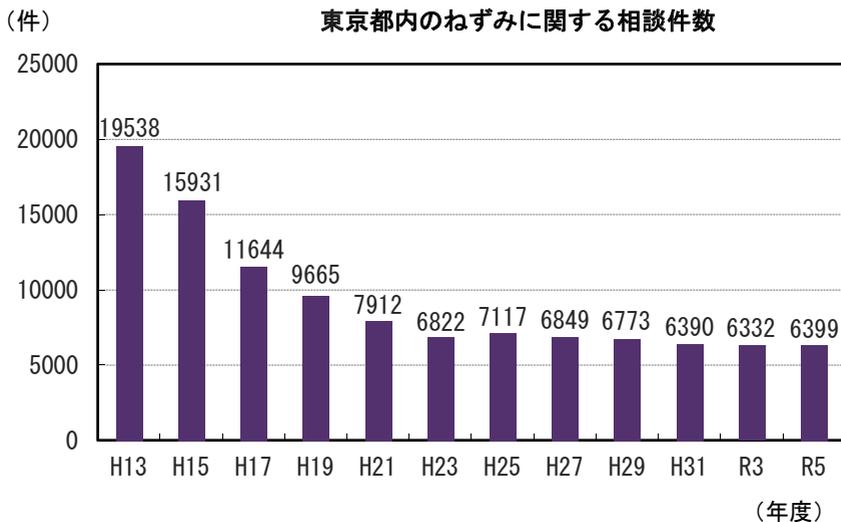


1 東京でねずみは増えているのか

東京でねずみが増えているかどうかについては、現在、都市部で優占種となっているクマネズミの捕獲調査が非常に困難なこともあり、はっきりとした報告はありません。

東京都が集計した都内区市町村及び保健所に寄せられたねずみに関する苦情相談件数は、平成13年に2万件近くありましたが、それ以降は減少し、平成21年以降はほぼ横ばいとなっています。

ねずみの増減に関しては分からないことも多く、再び増加することも考えられますので、引き続き注意が必要です。



2 なぜねずみの相談が多いのか

(1) ねずみの種類の変化

ねずみの相談が多い理由のひとつは、東京の住宅地におけるねずみの優占種が、殺そ剤（毒えさ）や捕そ器（ねずみ捕り）で比較的たやすく駆除されるドブネズミから、駆除の難しいクマネズミに変化したことが考えられます。

現在自治体が住民から受ける相談で、ねずみの種類が分かる相談のほとんどがクマネズミによる被害です。

〔住宅地におけるクマネズミ増加の理由〕

クマネズミは、気密性(保温性)がよく安全なビルの中で、ごみ置き場の廃棄物や厨房の厨芥などを餌にして増加したと考えられます。

その後、繁華街の再開発工事が頻繁に行われるようになった 1990 年代に、取り壊される建物やその周辺から逃げて近隣の住宅地に移動したために、住宅街でクマネズミの被害が増えたと言われています。

さらに、警戒心が強く殺そ剤や捕そ器などにかかりにくいことや、現在販売されている殺そ剤のほとんどがドブネズミを対象にしたもので、クマネズミに効きにくいことも、駆除を困難にしています。

(2) 高齢化社会との関わり

住宅地のねずみ被害の特徴の一つは、高齢者世帯での被害が多くなっていることです。

- ① 一般に高齢者の家庭では、加齢に伴い身体機能が低下してくるため、家の中の片付けや食品の保管、生ごみの処理などがおろそかになりがちな場合が多く、餌や巢の材

料になるものをねずみに取られやすい環境になっています。

- ② 実際にねずみが生息している高齢者世帯のほとんどは、自力で駆除を行うことができず、また経済的な理由等から防除業者に依頼することができないため、ねずみの侵入が放置されています。

今後、高齢化の進展とともに介護支援が必要な高齢者の数も増加すると予測され、介護福祉関係者にとって頭の痛い問題となっています。

高齢者宅におけるねずみ被害に関するアンケート調査

平成15年度 ケアマネージャー対象 東京都実施

- 回答者の 74.5%が、過去 1 年間に介護支援サービスの利用者宅でねずみ被害があったと回答。
- ねずみの侵入により、食べ物や家具に対する食害のほかに、眠れない、不安、ストレスなど精神面での被害が多く挙げられ、高齢者の生活全般に悪影響を及ぼしていることが明らかとなった。

(3) 都市生活者の生活様式の変化

昨今の都市生活者の生活活動は 24 時間絶え間なく行われ、それに伴い残飯や廃棄物などのねずみの餌になるものも、いたるところに放置されています。このように人間の活動の終日化は、ねずみの採餌活動をより好都合にし、ねずみの餌選択と活動場所の範囲を広げています。

(4) コミュニティ活動の弱体化

伝染病予防法が制定された明治 30 年以降、住民による地区衛生活動が活発に行われ、地域で集まって毒団子を作ったり、ねずみ捕りによる捕獲が行われていました。昭和 30 年代には「ハエと蚊をなくす生活実践運動」が全国的に展開され、公衆衛生は向上しました。しかし、その後、高度経済成長の時代を経ると、地域の連帯感は徐々に低下し、町内会単位で行われていたねずみ駆除が、個人単位で行われるようになりました。

そして、かつては地域で共有していたねずみ防除に関する知識や情報は途絶え、人々は地域のねずみ問題に関心なくなっていったと推察されます。

このようなコミュニティ活動の弱体化が、ねずみ対策に必要な地域全体での取組を困難にし、ねずみ被害を助長させる要因の一つになっていると考えられます。



3 ねずみの被害にはどのようなものがあるのか

(1) ねずみと感染症

ねずみによる衛生上の被害で最も恐ろしいのは、ねずみから人への感染症の媒介です（ねずみ由来感染症）。

ねずみ由来感染症は、人がねずみに咬まれたり、ねずみの体に触ることにより直接的に感染する場合と、ねずみの糞や尿中に排泄された病原体が飲み水や食品を汚染し、経口的に人に取り込まれる場合があります。

ねずみ由来感染症には、次のようなものがあります。

① 腎症候性出血熱(HFRS)

ねずみの糞や尿の中に病原体であるハンタウイルスが排泄され、それに接触することなどにより感染します。発熱や、結膜、皮膚などからの激しい出血と、蛋白尿などの症状を伴います。1960～70年にかけて大阪の梅田地区で流行し、119名の患者と2名の死者がありました。

近年、わが国で感染者は出ていませんが、ロシアや中国を中心としたユーラシア大陸では毎年かなりの発生があり、そうした国からのねずみを介した伝播が心配されています。

② レプトスピラ症

病原性レプトスピラにより引き起こされる急性熱性疾患で、かぜに良く似た軽症型から、腎障害などを伴う重症型(ワイル病)まで、さまざまな症状があります。病原性レプトスピラは、ねずみを含めた野生動物の尿中に排泄され、尿で汚染された水を飲んだり、触れたりすることで感染します。昭和30年代までは、水田作業で感染する人が多く、「秋疫（あきやみ）」と呼ばれ恐れられてきました。

近年は、川辺でのレジャーや土木作業を通じて感染した例が報告されています。

③ その他

その他に、広東住血線虫症、鼠咬症、^{そこう}サルモネラ症、クリプトスポリジウム症などの疾患があります。

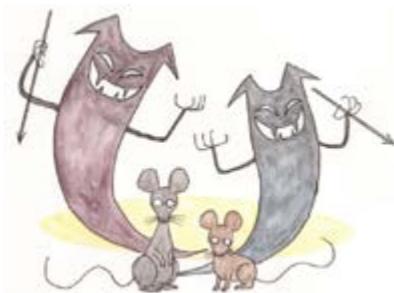
(2) ねずみと皮膚炎

ねずみには体長 0.5～1.0 mmのイエダニというダニが寄生して吸血しています。ねずみの巣にも多く、宿主であるねずみが巣からいなくなったり、死んだりして吸血できなくなると、それらの場所から離れて移動し、人を吸血して激しい痒みと皮疹を引き起こします。

(3) ねずみと精神的被害

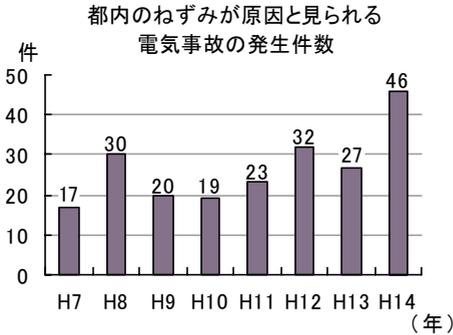
ねずみによる被害は、感染症や皮膚炎だけでなく、ねずみがいることによる精神的苦痛もまた、重大な被害と考えられます。

さまざまな調査から、ねずみが家にいることで、実害がなくても住民は食中毒や食害、イエダニによる被害などを想像し、精神的に苦痛を感じ、不安やストレスなど生活全般に悪影響を与えることがわかっています。

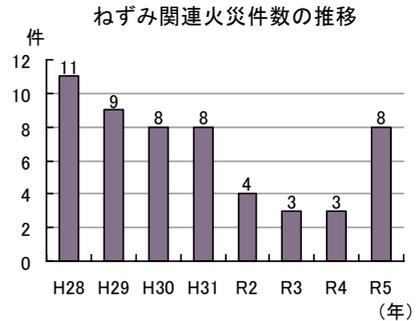


(4) 都市機能の阻害

ねずみの被害は、時として都市機能の停止を招くほどの規模に及びます。具体的には電線ケーブルやガス管のかじりによる停電や火災、爆発事故等です。これらはしばしば周辺地域の住宅やビルの停電などの波及事故につながり、大きな経済的被害を招くことがあります。



(出典：一般財団法人 関東電気保安協会)



(出典：東京消防庁)



ねずみにかじられた電気コード



ねずみにかじられたガス管

(写真提供：東京消防庁)

(5) 経済的被害

ねずみにより引き起こされる経済的被害のうち最も一般的なものは、食害(かじり)による商品の汚損です。

これは倉庫で保管中の、またはデパートやスーパーなどで陳列されている食料品や衣料品などをねずみがかじって商品価値を失わせることです。

また、食品工場などでねずみが発生すると、その死体や体毛、糞などが製品に混入し、いわゆる異物混入事故として問題になります。

ねずみは、冷蔵庫やテレビなどの電気機器の裏側などの発熱して暖かい場所に、巣材を持ち込んで巣を作ります。その結果、巣の近くでねずみのかじった電気コードが短絡したり、放熱板にねずみの尿がかかってスパークし、電気機器が破損したり、ひどいときには火災が発生します。



ねずみの尿がかかって発火した電気機器の基盤部分

(写真提供：東京消防庁)

4 防除はどのように進めるのか

(1) 防除方法について

昔はねずみといえばドブネズミだったので、毒えさとネズミ捕りでほとんどが駆除できましたが、従来の方法による防除が困難なクマネズミが主流になるに伴い、防除の考え方も変わってきています。

現在のねずみ防除方法の考え方は、次の3つに分けられます。

環境的防除：ねずみの生息しにくい環境を整え維持していく防除法で、人や環境に最も影響が少なく、効果が持続

化学的防除：殺そ剤や忌避剤といった薬剤を使用する方法

物理的防除：ネズミ捕り（かご、粘着トラップ、圧殺式トラップなど）を使用して捕獲する方法

ねずみは、生態・習性（警戒心の強さ、喫食性など）や殺そ剤感受性^(注)などの違いから、種類によって有効な防除法が異なります。

(注) 殺そ剤感受性とは、薬剤がよく効くか・あまり効かないかの程度をいいます。感受性が高いということは、その薬剤がよく効くということです。

ねずみの種類別の防除方法の有効性についての比較

	ドブネズミ	クマネズミ	ハツカネズミ
環境的防除	有効	有効	有効
化学的防除	有効	あまり有効でない	有効
物理的防除	有効	あまり有効でない	有効

(2) 防除の進め方

ねずみは種類によって生息場所や性質、行動パターンが異なるため、防除にあたっては種類を見分け、それにあう適切な方法をとることが大事です。従って、下に示す手順に従い段階的に進める必要があります。

- ① 種類を見分ける
- ② 侵入経路と生息要因を明らかにする
- ③ 対策のための措置を講じる

〔総合防除（IPM）について〕

ねずみ・昆虫等の防除といえば、従前は対象になる昆虫などがいる、いないにかかわらず、薬剤を散布する「化学的防除」が主流でした。

しかし、その結果、薬剤の過剰散布による環境汚染や人体への悪影響、また対象となるねずみや衛生害虫に抵抗性のあるものが出現するなど、さまざまな弊害が出てきました。

このことから、防除方法の考え方は大きく見直され、現在、主流となっている考え方は「IPM (Integrated Pest Management: 総合防除または総合的有害生物管理)」です。

IPMの定義は

「害虫等による被害が許容できないレベルになることを避けるため、最も経済的な手段によって、人や財産、環境に対する影響が最も少なくなるような方法で、害虫等と環境の情報をうまく調和させて行うこと」とされており、生息状況調査を重視した防除体系です。

① 種類を見分ける

日本国内には 18 種のねずみ（ネズミ亜科 11 種とハタネズミ亜科 7 種）が生息しています。このうち住環境で問題になるのが、いわゆる家ねずみ類と呼ばれるクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの 3 種です。

	姿	特徴（※個体差あり）
ド ブ ネ ズ ミ		<p>体長：22～26 c m 形態：尾は頭胴より短い 耳が小さい 腹部は灰色※ 尾は白っぽい※</p> <p>生態：地面に穴を掘り、泳ぎが得意</p> <p>食性：動物質を好む</p> <p>生息場所：植込み 公園の地面 下水管、下水溝 ビル低層階</p> <p>警戒心：あまり強くない 殺そ剤感受性：高い</p>

（写真提供：イカリ消毒(株)谷川力氏）



	姿	特徴（※個体差あり）
ク マ ネ ズ ミ		<p>体長：15～20 c m</p> <p>形態：尾は頭胴より長い 耳が大きい 腹部は黄褐色※ 尾は黒い※</p> <p>生態：身軽で運動能力が高く、電線を伝ったり粗面の壁を駆け上る</p> <p>食性：植物質を好む</p> <p>生息場所：ビル内部の高い所、壁の中、天井裏</p> <p>警戒心：非常に強い</p> <p>殺そ剤感受性：低い</p>
ハ ツ カ ネ ズ ミ		<p>体長：6～9 c m</p> <p>形態：尾は頭胴より短く 耳が大きい。 腹部は白い※ 小型</p> <p>生態：運動能力はクマネズミほど高くない</p> <p>食性：植物質（穀類や種子）を好む。</p> <p>生息場所：畑に生息（農村型）</p> <p>警戒心：あまり強くない</p> <p>殺そ剤感受性：高い</p>

（写真提供：イカリ消毒(株)谷川力氏）

② 侵入経路と生息要因を明らかにする

○ 侵入経路を見つける

ねずみは、家の周囲のわずかなすき間を見つけて住居内に侵入します。垂直行動が得意なクマネズミの場合は、電線やパイプなどを伝ったり、粗い壁や閉じたシャッターなどをよじ登って侵入することができます。ドブネズミの場合は、植込みなど土のある場所を拠点に建物内に侵入しますが、排水管や下水溝などを通ってくることもあります

従って、ねずみの侵入経路を見つけるために、建物外部にねずみが通り抜けられそうなすき間がないかを、屋上から地上まで丹念に探ることが大切です。

また、建物の外側から侵入口を探すのが困難な場合は、屋内から外壁の内側を探すと、ラットサイン（17 ページ参照）の存在などにより、侵入口が判明することがあります。

表 クマネズミとドブネズミの運動能力

上階へ登れる外壁の構造	コンクリートブロック、表面の粗いもの
水平歩行可能な構造	電線、網*
掘削力	地中に深さ1.5mの穴を掘る**
出入り可能な穴の大きさ	1.25cm
跳躍力	垂直1m、水平1.2m、4.5mの高所から水平に2.4m以上可。 15m落下しても怪我しない

*:ドブネズミは電線の歩行不能。

** :クマネズミの掘削力は劣る。

「防鼠構造検討委員会編:ビルの防鼠構造・工事マニュアル」
(発行:ねずみ駆除協議会)より作成

○ 侵入経路になりやすいところ



扉のすき間



基礎のすき間



壁の穴



戸袋



通気口のすき間

○ 生息要因（餌場、営巣場所）を見つける

ねずみが活動する時間帯は、主に人の活動していない夜中なので、ねずみ本体を確認することは困難ですが、活動に伴ってさまざまな証拠（ラットサイン：証跡）を残すので、それを手掛かりに活動場所を特定することができます。

ラットサインの種類は、音、かじり跡、糞、足跡、体のこすり跡などです。足跡やこすり跡は、ねずみの体から分泌される脂分と汚れが、ねずみの通り道に付着してできるもので、特有の黒光りした跡になります。

○ ラットサインからわかること

- ① ねずみの外からの侵入経路
- ② 家の中のねずみの通路
- ③ 家の中でねずみに使われる場所（餌場、営巣場所）

〔餌場になりやすい場所〕

- ・ 台所、食品保管庫、居間など食べ物があるところ
- ・ 生ごみの保管場所
- ・ 仏壇の供物や花
- ・ ベランダの花
- ・ ペットの餌の置き場所
- ・ 野鳥の餌台 など

〔営巣場所になりやすい場所〕

- ・ 天井裏、物置、家具の裏
- ・ 押入やたんすの中
- ・ 壁の中
- ・ テレビや冷蔵庫など電気製品の裏 など

※ ねずみは暖かく人目につきにくいところに紙や布、ビニールなどを集めて巣を作ります。

<いろいろなラットサイン>



① ねずみの糞



② 天井の穴とこすり跡



③ かじられたふすまとケーブル

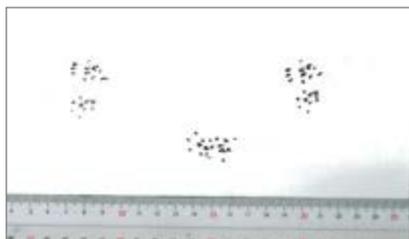


④ スチール製倉庫のラットサイン



⑤ 巣になっていた引出しの内部

<ねずみの足跡（例）>



(クマネズミの足跡)

(①～④及びクマネズミの足跡 写真提供：イカリ消毒(株)谷川力氏)

5 ねずみを住み着かせないために —環境的防除—

住宅地におけるねずみ被害の主流であるクマネズミは、殺そ剤やトラップなどによる捕獲が有効でないため、防除は多少手がかかりますが、「環境的防除」を徹底して行うことが問題解決につながります。

環境的防除の基本柱は、次の3本です。

- (1) 餌を与えないこと
- (2) 巣材を与えないこと
- (3) 住まいへの出入り及び建物内部での移動を防ぐこと

(1) 餌を与えないこと

餌になるものは徹底的に撤去するか、容器などにしまい、ねずみに触れさせないようにします。

<具体的な例>

- ① 食品は放置せずに、プラスチックや金属性の蓋つき容器やしっかりと扉が閉まる戸棚、冷蔵庫などにしまう。ビニール袋やダンボールに入れた状態ではかじられる。
- ② 仏壇のお供え物や花は、夜には片付ける。
- ③ ペットの餌は食べきれただけ与え、残りを放置しない。
- ④ 生ごみは蓋つき容器に入れ、蓋をしっかりと閉める。
- ⑤ ベランダの鉢植が食べられている場合、安全な場所に移す。
- ⑥ 野鳥の餌台の餌は、夜間には片付ける。

(2) 巣材を与えないこと

巣材になるものは放置せずに収納するなどしてねずみに持ち出されないようにするとともに、家の内外を整理整頓し、ねずみの隠れ場所をなくすことが大切です。

<具体的な例>

- ① 衣類やタオル、シーツなどの布製品は、収納ケースに入れる。(収納ケースはプラスチックなど強固なもの。ダンボールは不可)
- ② 押入やたんすにねずみが侵入する穴があれば塞ぐ。
- ③ 室内は整理・整頓し、紙類、布類のたまり場を作らない。
- ④ 不要な紙類や布類は、処分する。
- ⑤ 天井裏、家具と壁の間のすき間、物置などは、ねずみの巣が作られていないか時々点検する。
- ⑥ 屋外が乱雑になっていると、外にいるねずみを寄せつけるので、屋外の整理・整頓も重要である。特に家の壁沿いに物を置くと、ねずみの隠れ場所となる。



ねずみの出やすい環境



ねずみの出にくい環境

(3) 住まいへの出入り及び建物内部での移動を防ぐこと

ねずみの侵入経路をふさぐことを、一般に防そ修繕または防そ工事と呼びます。この対策は、殺そ剤やねずみ捕りによる防除が難しいクマネズミに対して、特に効果的な方法です。

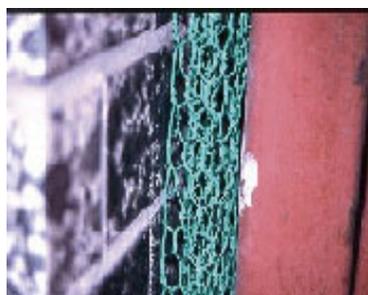
○ 防そ修繕の方法

防そ修繕と聞くと、経費のかかる大がかりな工事を想像する人が多いと思われませんが、実際には侵入経路さえ見つけられれば、修繕は手近にある材料で比較的簡単に行うことができます。ただし、天井裏や高所などの危険な場所については、専門業者に依頼したほうがよい場合もあります。

穴ふさぎの材料は、面積が広い場合は木やブリキ板、金網などを使用します。壁の穴や配管の貫通部分などの小さなすき間には、不燃性のパテやモルタル、金属たわし、亀甲金網などの、変形しやすくねずみが嫌いな材料を埋め込みます。



金属たわしによる穴ふさぎ



亀甲金網を使用した防そ処理

(写真提供／イカリ消毒(株)谷川力氏)

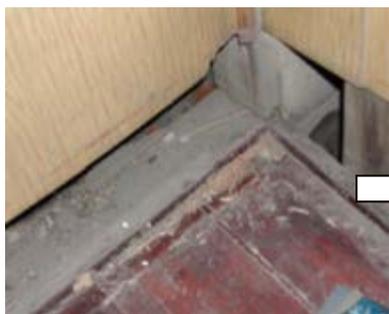
○ 防そ修繕の具体例

修繕箇所	修繕方法
雨戸の戸袋	戸袋の中のすき間に、まるめた亀甲金網や金属たわしを突っ込んでふさぐ。
電線導入部	電気や電話線が外壁に貫通している部分のすきまを、不燃性のパテを詰めてふさぐ。注)
屋根の下	屋根の下の垂木 ^{たるき} と外壁の間にすきまがある場合は、金網を折って差し込むか、角材を入れる。
通気口 (屋根の下、床下)	格子が破損していて、ねずみが通れる穴が開いている場合は、通気口全体に金網をかぶせる。格子の幅が広すぎる(1.25 cm以上)場合は、1cm 位のものに取り替える。
換気扇	防火ダンパーが油汚れで閉まらない場合は、閉まるよう掃除する。取り付け部分にすき間がある場合は、パンチングパネル(小さな穴の開いた金属の板)などでふさぐ。
基礎のすきま	モルタルなどを詰めてふさぐ。
配管貫通部分	不燃性のパテやモルタルで埋める。応急措置としては、すき間に金属たわしを詰める。
扉のすきま	木製のドアの周囲にすき間やねずみにかじられた穴などがある場合は、金属板を打ちつけてふさぐ。
壁のひびわれ	不燃性のパテやモルタルで埋める。

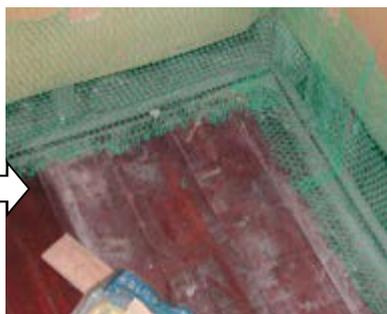
※広い隙間に金網をかぶせて修繕する場合、網目幅が 1cm 以下の金網を使用する。

注) 電気配線が壁を貫通し配電盤につながる部分にすきまがある場合の防そ修繕は危険なので、電気屋さんにお願ひしましょう。

○ 防そ修繕の具体例



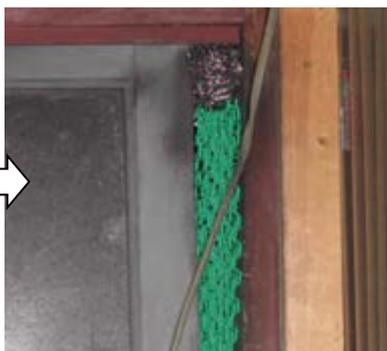
① 床と壁の間にすき間ができ、
侵入口となっている箇所



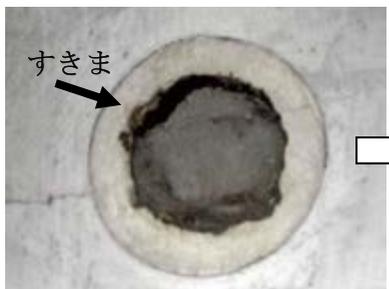
亀甲金網による防そ修繕



② 閉まらなくなった窓のすき間
が侵入口になっていた箇所



金網とスチールたわしによる
防そ修繕



③ 配管埋戻し部分のすき間



パテによる補修

6 侵入したねずみを駆除する ー物理的防除と化学的防除ー

捕獲器と殺そ剤は、ドブネズミ、ハツカネズミに対して有効です。クマネズミに対しての物理・化学的防除は専門業者でもなかなか困難とされています。あくまでも環境的防除の補足と考えた方がよいでしょう。

(1) 物理的防除方法

① 粘着トラップの利用

粘着トラップは、活発に活動しているねずみが粘着物に足をとられて、体が貼りつく効果を利用したものです。使い方は、ねずみがよく通る通路全体に複数枚配置します。

粘着トラップは、規則正しく並べる方法（写真左）と、ランダムに並べる方法（写真右）があります。どちらかを選択し、配置は頻繁に変えないことが大事です（最低 3 日間は変えない）。ただし、効果がない場合は逆の方法を試みるとよいでしょう。また、大型のねずみの場合、トラップの設置が少ないと逃げられることがあるので、捕獲できないときは配置枚数を増やしてみることも必要です。



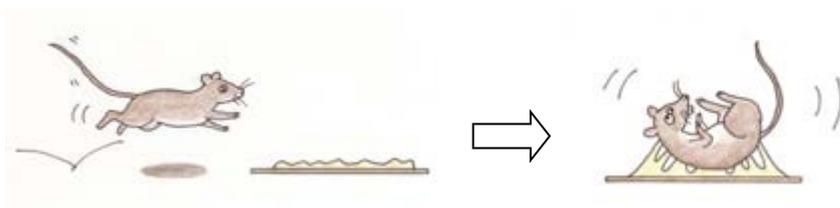
規則正しく並べたところ



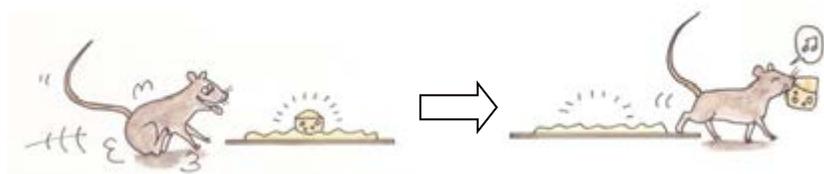
ランダムに並べたところ

（写真提供：イカリ消毒(榎谷川力氏)

《注意》粘着トラップには、餌を置かないこと



勢よく走っているねずみは粘着トラップに足をとられて体ごと貼りつく



トラップに餌を置くとねずみが止まってしまう逃げられやすくなる

② 捕獲器（カゴトラップ）の利用

カゴトラップが有効なのは、主にドブネズミです。中の餌は、フックにかけやすいソーセージや薩摩揚げなどが向いています。周辺に食品や残飯などがないようにします。

(2) 化学的防除方法

殺そ剤を使用する際の注意事項は、カゴトラップと同様、周辺の餌になるものを片づけてから使用します。殺そ剤の置き方は、一箇所に大量に置かずに、少量ずつ複数のポイントに置き、よく食べるポイントに多く置くようにします。ねずみが食べ出したら、食べなくなるまで置き続けます。

殺そ剤を使うときは、ペットや子供が誤食しないよう注意が必要です。

7 ねずみ駆除を業者に頼む場合

(1) 業者について

東京都内には、ねずみや害虫を防除する専門業者の団体である公益社団法人東京都ペストコントロール協会があります。

協会の主要な業務として、害虫相談所を設置し、都民を対象にねずみ・害虫などの防除に関する相談と駆除を行っています。

相談と駆除は、協会に加入している地元の業者を紹介しします。

協会では相談と駆除を行う業者に、毎年、研修会の受講を義務付けて、適切な相談と駆除ができるよう指導しています。

<公益社団法人東京都ペストコントロール協会>

〔住 所〕 〒101-0044
千代田区鍛冶町二丁目 9 番 5 号東園ビル 4 階

〔電 話〕 03-3254-0014

〔設立年次〕 昭和 55 年

〔業務内容〕

- ・ねずみ・害虫などの防除に関する調査研究及び技術の研修
- ・ねずみ・害虫などの防除知識の普及広報
- ・害虫相談所の設置と運営

(2) 駆除を依頼した場合の費用について

ねずみを効果的に駆除するためには、事前の生息状況調査と、それに基づく捕獲作業及び防そ修繕、そしてその後の効果判定がなされる必要があるため、どうしても複数回の作業が必要です。

また、費用については、周囲の環境、住宅構造、作業条件などによって異なりますが、見積書を作成してもらい、内容について納得できるまで十分に説明を聞くことが必要です。

(3) 業者を選ぶ際の注意事項

次のことを確認した上で、業者を選ぶとよいでしょう。

- ① 事前の生息調査と防除後の効果判定を適切に実施していること
- ② 殺そ剤や粘着トラップを使用した、物理的、化学的防除以外に、環境的防除の側面からも対策を講じたり指導を行えること
- ③ 防そ修繕の内容、施工方法等について顧客にきちんと説明し、理解を得ていること
- ④ 費用については、周囲の環境、住宅構造、作業条件などによって異なるので、顧客に見積書を提出し、内容について、**納得を得られるまで十分に説明できること**

なお、ねずみ防除に直接関係ない作業を強く勧めたり、必要以上に顧客の危機感をあおるような業者は、適切とはいえません。

8 ねずみに関する相談・お問い合わせは

ねずみについての相談・お問い合わせは、お住まいの特別区（区役所・保健所）、及び市町村（市役所・町村役場）のねずみ昆虫等の防除事務を所管する部署までご連絡ください。なお、市町村（八王子市、町田市を除く。）にお住まいの方は、下表の各保健所でも受け付けています。

<東京都保健所一覧>

名称	所在地	電話番号	
西多摩保健所	198-0042 青梅市東青梅 1-167-15	0428-22-6141	
南多摩保健所	206-0025 多摩市永山 2-1-5	042-371-7661	
多摩立川保健所	190-0023 立川市柴崎町 2-21-19	042-524-5171	
多摩府中保健所	183-0022 府中市宮西町 1-26-1	042-362-2334	
多摩小平保健所	187-0002 小平市花小金井 1-31-24	042-450-3111	
島しょ保健所	大島出張所	100-0101 大島町元町馬の背 275-4	04992-2-1436
	三宅出張所	100-1102 三宅村伊豆 1004	04994-2-0181
	八丈出張所	100-1511 八丈町三根 1950-2	04996-2-1291
	小笠原出張所	100-2101 小笠原村父島字清瀬	04998-2-2951

ねずみ

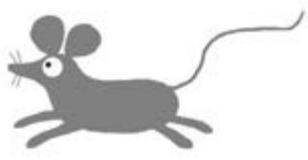
ビルの中のねずみの生態

クマネズミはビルの天井裏、壁の中、冷蔵庫やテレビなどの電気機器の裏（放熱盤があり暖かい）や空調機器の内外など、さまざまな場所に巣を作ります。

採餌活動は主に夜に行われ、ビル内部に張り巡らされた電線ケーブルやガス管、排水管などのパイプ類を伝わってごみ置き場や食品保管場所などに移動します。そのため、パイプ類と壁の貫通部分の開口部の存在が大きな問題になります。

ドブネズミは、緑地や歩道脇の植込みの土に穴を掘って巣を作ります。

建物や部屋の比較的低い場所で活動するため、調理場の床や下水溝を餌を求めて歩き回ります。人目につかない調理台やカウンターの中、植木鉢の内部などに巣を作る場合もあります。



豆 知 識

集合住宅でねずみが発生したとき

集合住宅では入居者全体での対応が必要です。
分譲住宅の場合は管理組合が、賃貸住宅の場合は家主が主体となり、アンケート等で集合住宅全体の被害状況を調べ、同時に侵入経路や餌場になりやすいごみ置き場などの状況を調べます。
対応策は、防そ修繕の実施とともに、ねずみの発生防止のルールを定め、住民全員に守ってもらうことが重要です。

粘着トラップの効果的な使用方法

粘着トラップを使用する場合、いきなりトラップを通路に置くとねずみが見慣れないものに警戒して近寄らないため、捕獲されない場合があります。

この場合、最初はトラップの粘着面を露出しない状態で置いておき、ねずみはその存在に慣れたところで粘着面を露出させて置くと、捕獲できることがあります。

都民のためのねずみ防除読本

令和7年12月発行

登録番号(7)141

編集・発行 東京都保健医療局健康安全部環境保健衛生課
新宿区西新宿二丁目8番1号
都庁第一本庁舎 31階南側
電話 03-5320-4391(直通)

印刷 社会福祉法人 東京コロニー 大田福祉工場
電話 03-3762-7611(代)